

令和7年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	23	学校名	静岡県立吉原高等学校	記載者	佐田 恵子
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	生徒の主体的な学びが可能となる多様な体験の場を用意し、一人ひとりの得意分野を伸ばすとともに、失敗してもしなやかに立ち直る非認知能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「失敗しても自分なりに解決し、立ち上がることができる」と答える生徒の割合 70%以上 ・「学年行事や学校行事において、ルールを守りながら、主体的に取り組むことができた」と答える生徒の割合 80%以上 ・「授業に満足している」と答える生徒の割合 80%以上 ・「ICT 機器を活用し、生徒の思考力を育むことができた」と答える教職員の割合 80%以上 ・「学校行事に満足している」と答える生徒の割合 80%以上 ・「生徒会活動などが活発に行われている」と答える生徒の割合 70%以上 ・「ポスターやスライドを使用した 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を尊重した多様な体験活動が充実しており、失敗を恐れず挑戦する姿勢が育まれている点を高く評価できる。ICTを活用した授業改善や行事・生徒会活動の活発さも、生徒の思考力と表現力を伸ばす好循環を生んでおり、学校全体の取組の質の高さを感じられる。 ・生徒の実態をしっかりと把握しようとして先生方はよく観ていると感じる。その実態をもとに学習の手立てや考え、工夫した授業を行っていると感じた。生徒会活動においては生徒自らが課題を見つけ、よりよい高校生活ができるような話し合いをもっと設けてもよいと思う。吉高生にはそれだけの力があると思う。形式にとらわれない吉高独自のものを考える。 ・ボランティア活動がとても少ないように感じる。JRCだけの活動がよく聞かれますが、富士山女子駅伝の参加など声掛けをしてみてもどうか。富士市の知らない部分を肌で感じてもらいたい。 ・放課後の教育環境を整えてくださっているが、大学などへの進学を考えるととても家庭学習時間が少ないと思う。短時間で集中できる環境づくりをもっと膨らませても良いのではないかと(放課後教室、進路相談、何でも相談、面接の形をとりコミュニケーション能

		発表に自分なりの工夫ができた」と答える生徒の相互評価の割合80%以上			<p>力を高めるために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「成果と課題」で、「発表し、お互いの発表についてコメントした」とあり、自分の発表だけでなく、仲間の発表をしっかり聴けていることは素晴らしい。適切な質問をし、批判的にコメントできるよう、引き続き、努めていただきたい。 ・学校行事に満足していると答える生徒の割合が94.9%と高く、生徒が中心となり、行われることにより、達成感を感じている結果だと感じる。将来、高校生活の思い出の一つとして心に刻まれていってほしい。
イ	心身ともに健康で安全・安心して学ぶことができる教育環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「HRや部活動の中で自己有用感を持っている」と答える生徒の割合80%以上 ・「自分の想い、考えを言語化できる」と答える生徒の割合80%以上 ・「生徒対応、保護者対応を速やかに行うことができた」と答える担任・学年主任の割合100% ・点検実施率100% ・施設・設備不良における事故(ゼロ) ・遅刻・欠席数の減少(前年比) ・「周囲と協力して安心安全な環境づくりに 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が心身ともに安心して学べる環境づくりに力を注ぎ、日々の生徒対応や保護者連携を丁寧に行っている点が大変印象的であった。安全面の点検が徹底され、施設管理も確実に行われていることから、学校全体で生徒の生活を支える姿勢が伝わってくる。また、生徒が自己有用感を高め、周囲と協力しながら安心・安全な学校づくりに参加できている点も、本校の教育の質の高さを示しており、高く評価できる。 ・現在三年生の生徒はコロナ時に中学一年生だった為、コミュニケーション力が欠けており、プレゼンや話し合いなどが苦手とのことでしたが、その下の二年生や一年生は更にコロナの影響を受けていることを知り、非常に危機感を覚えた。グループワークなどを設け、自分の考えを相手に伝える指導をされているとのことなので、ぜひ今後でも取り入れていただき、学校生活の中でコミュニケーション力を培っていただきたい。

		<p>協力できたと答える生徒の割合80%以上</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や困難を抱える生徒についての対策が教師間で共有されていることは素晴らしい。生徒を切り捨てない、これが一番大事だと思う。 ・安心・安全な学校づくりは、生徒にとって学校生活の基盤。時代とともに変化する生徒・保護者のニーズを適切に把握し、今後も教育環境の整備をお願いしたい。 ・達成状況が90.4%は、非常に高い。一方で、「言語化」をどのようにとらえるかによって上下するかもしれない。「自分の思い、考えを言語化できる」ことは第一歩だが、「他者が理解できるよう言語化できる」かどうかとも考慮すべきかもしれない。
ウ	<p>生徒の知的好奇心を刺激し、生徒自らが問いを立て課題解決を行う主体的な学びを通して、思考する力、確かな学力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間の家庭学習時間の1日平均が、1・2年生：2時間以上、3年生：2.5時間以上 ・「ICT 機器を活用し授業を展開できる」と答える教職員の割合90%以上 ・「校内研修が授業改善に役立った」と答える教職員の割合70%以上 ・「総合的な探究の時間を通して、自身のライフプランについてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合80%以上 ・「授業で調べたことをまとめたり、 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びを中心に、生徒の知的好奇心を刺激し、自ら問いを立てて学ぶ姿勢を育てる取組が大変充実していると感じた。ICTを活用した授業改善や校内研修による教員の指導力向上も効果的で、授業満足度の高さにつながっている。家庭学習の習慣化や各教科での工夫も確実に成果を上げており、生徒が主体的に学び、思考力を伸ばしている点を高く評価する。 ・予習復習を含めた授業準備ができた生徒の達成状況が目標よりも低かったが、授業内容が楽しいと答える生徒の割合が全教科満足率96.6%とのことでしたので、授業の時間内に集中して学んでいるのではと感じる。予習復習はもちろん大事ですが、部活動での仲間との時間、健康な身体づくりのための睡眠時間の確保も必要なので、授業内容が充実していることで学力向上を補えるのではないかと思う。 ・常に教師が研修する気持ちや

		<p>発表した」と答えた生徒の割合 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業内容が楽しい」と答える生徒の割合 80%以上 ・日常的な題材を用いた数学の問題を適宜扱う。 ・「課題や実験などに自らの問いをもって積極的に関与している」と答える生徒の割合 70%以上 ・「各科目（物理・化学・生物）の学習内容を理解し活用できている」と答える生徒の割合 70%以上 ・「自分の考えを英語で表現することができる」と答える生徒の割合 80%以上 ・人前で演奏する機会を作り、全員で演奏することができる。 ・教育委員会が主催する、新体カテスト記録会にて、昨年度の記録を更新する。 ・「授業開始時に予習復習を含めた授業準備ができた」と答える生徒の割合 80%以上 			<p>生徒一人ひとりへの学習支援を考えていく努力を常にしていると思う。教科研修はもとより、教科間の情報交換、生徒の実態把握はこれからも学校の力になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くのことを体験する機会を増やしていきたい。 ・「授業が楽しい」と回答した生徒の割合が非常に高かったとの結果に、吉原高校の先生方の努力を感じる。 ・生徒の「わからない」「なぜ」というつぶやきを適切に拾い、今後も課題解決型の学習を続けていってほしい。 ・予習が大事なのか、復習が大事なのか、教科によっても、また、単元によっても求められる学習のあり方が違うはず。両方を進めればよいことは生徒も保護者もわかっています。しかし、部活動をやっていれば、時間は限られてしまいます。部活動に時間を奪われている高校生にとって、やみくもに量を求めるのではなく、学習内容に応じて質を上げる効果的な学習方法を教えて欲しい。 ・この「成果目標」にとどまらず、理系科目にさまざまな工夫がなされていることがうかがえる。引き続き尽力していただきたい。 ・授業内容が楽しいと答える生徒の割合が 95.4%と高く、教職員の方々が努力されていることがうかがえ、素晴らしいと感じた。
--	--	---	--	--	---

様式第5号

エ	<p>自己実現に向け、主体的に取り組む生徒を支援するキャリア教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路決定にあたり、社会の中でいかに主体的に他者と関わり自己実現を図るか、長期的な視野で考えられた」と答える生徒の割合 90%以上 ・「学校から提供される情報または教師との相談が、進路を考える上で役立った」と答える生徒の割合 90%以上 ・「進路指導に関して、学校と家庭のコミュニケーションが図られている」と答える生徒、保護者の割合 80%以上 ・「吉高ゼミ、LHRが進路研究や文理選択に役立った」と答える生徒の割合 60%以上 ・「模試や進路行事が進路選択に役立った」と答える生徒の割合 80%以上 ・「授業における学習内容が自己実現の役に立った」と答える生徒の割合 60%以上 ・「大学入試問題に意欲的に取り組 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの自己実現に向け、計画的かつきめ細かなキャリア教育が展開されている点を高く評価する。進路情報の提供や相談体制が充実し、生徒が将来を主体的に考える機会が十分に確保されていることが伝わってくる。また、吉高ゼミやLHR、進路行事の効果的な運営により、生徒が自らの進路や目標を深めていく環境が整えられており、生徒の成長を力強く後押しする優れた取組であると感ずる。 ・二年生の生徒の中で、自ら勉強室を使用したいとの申し出があったと伺い、大変驚いた。三年生の姿に憧れを抱いてとのことでしたが、先輩が良いお手本となって、素敵な背中を後輩たちに見せていることが想像でき、学校全体でも良い方向に向かい進んでいることが分かった。 ・生徒が目標を持つことの手伝いをするのは、教師のアイデアと様々な職業、社会情勢を知識として持っていることが武器となると思う。生徒と腹を割って話せる、助言できる関係づくりにこれからも心がけたい。 ・進路に向けては本当に一人一人の生徒・保護者に対して関係性ができていると思う。 ・英語を勉強する機会が国際科によって、刺激になり今後も環境を整えていただきたい。 ・限られた中で行われる学校行事については、思い出作りと多くの人がかかわっているので大切にしてほしい。 ・授業の学習内容が「自己実現に役立つ」という質問を生徒が理解できているのかを疑問に感じる。もう少し分かりやすい表現はないか。 ・成果目標が60%であるのに対
---	--	--	---	---	---

		<p>んだ」と答える生徒の割合 50%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の目標やなりたい自分に近づくために、自分から学ぼうとする姿勢を先生が支えてくれた」と答える生徒の割合 70%以上 ・「旅行やボランティア活動、アルバイト、就職先などで、英語を使うことができると思う」と答える生徒の割合 80%以上 ・バイエル 85 番までを終了することができ、卒業試験において演奏を発表できる。 ・「学校行事に満足している」と答える生徒の割合が 80%以上 			<p>し、達成状況が 90.2%であるのは、喜ばしいかもしれないが、学校側と生徒側との意図に乖離があるかもしれないことを検証していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県東部で唯一「国際科」を持つ県立高としてのユニークネスが問われる項目なので、71.5%は懸念している。一方で、「国際科」であり「英語科」ではないので、どのように強みを引き出せるかがポイントである。「英語『ディベート』」の取り組みは、富士地区では他にはない先進的な知見があるので、より推し進める意義はありそう。 ・大学受験において、推薦入試が増えていく中で、保護者への丁寧な説明会を行ったことは、とても素晴らしい対応だと感じる。大学受験は戦略的にすすめるべきではないところもあると感じているので、今後も早めに対応いただけると嬉しい。
オ	異文化理解教育を推進する中で、互いを尊重し、リーダーにもフォロワーにもなれる資質を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「研修や活動に参加したことで、コミュニケーション能力が伸びた」と答える生徒の割合 80%以上 ・「研修や活動に参加したことで表現する能力が伸びた」と答える生徒の割合 80%以上 ・「多様な価値観に 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解を深める多様な学習機会が整えられ、生徒が新たな価値観に触れながら視野を広げている点を高く評価する。研修や活動を通じて、コミュニケーション力や表現力が着実に育まれていることも印象的である。また、基本的な規範を大切にしながら互いを尊重する姿勢を養う取組が学校全体で丁寧に進められており、生徒・保護者からの信頼につながる教育が実践されていると感じる。 ・普通科と国際科の生徒に垣根が無く仲が良いとのことでしたので、どうしてなのか疑問

		<p>触れ、自分の見識を広めることができた」と答える生徒の割合 70%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年全員で国際科の行事に積極的な参加を促す。 			<p>に感じておりましたが、修学旅行や海外異文化体験研修の情報を共有することで、相互において理解が深まったのだと実感した。今後も引き続き発表会の場を設けていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験をすることは、貴重であるので、経験する環境づくりをどんどん取り入れて、失敗を生かせるように。 ・自己評価であるべきか、この項目は、学級又はグループでの他己評価とすべきか、職員で検討してもよいと考える。
カ	<p>地域との連携をさらに深めるとともに、保護者・地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練参加率 50%以上 ・「ルールやマナー、あいさつといった基本的な規範を身に付け、実践することができた」と答えた生徒の割合 80%以上 ・「学校からの情報提供に満足している」と答える保護者の割合 80%以上 ・生徒・保護者や地域から期待される進路指導を実現する。「吉原高校での進路指導に満足している」と答える生徒・保護者 90%以上 ・創意工夫により魅力的な校内環境充実の予算を昨年度より増額する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実により、生徒が多様な価値観に触れ、自らの視野を広げる機会が丁寧に確保されている点を高く評価する。研修や活動を通じてコミュニケーション力や表現力が着実に伸びており、リーダーとしてもフォロワーとしても行動できる資質が育まれている。また、基本的な規範意識やマナーを大切にする指導が一貫して行われており、地域や保護者からの信頼につながる大変優れた取組であると感じる。 ・一年生の学年目標である「凡事徹底」という言葉を、日々学校生活の中で生徒同士共通の合言葉のように多用していることは、大変素晴らしい。社会に出てからも「凡事徹底」が、吉原高校の思い出と共にいつまでも心に残る言葉であってほしいと願う。 ・地域へ目を向けるきっかけが欲しい。ボランティア活動（JRCだけでなく）への積極的な参加。富士市社会福祉協議会ボランティアセンターと連携し災害時の支援や子供サロン、高齢者施設との関わりなど機会が増えると思いたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・協議会でいただいた意見を職員に共有し、魅力ある学校づくりの一助とする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練を実施しているにもかかわらず、職員が訓練に参加していないのは、今の時代、到底考えられない。一般市民から見ると、地域防災訓練に参加しない教員をどのように見ているかを考えてほしい。 ・成果目標と達成状況の乖離が大きい。提供の方法（量）ではなく、その内容（質）に課題があるのだろうか？解決するための適切な課題を設定していただきたい。そうしなければ、労多くして効なしの悪循環になる。
キ	「チーム吉高」として教職員が協働的な教育活動・事務室経営を行うとともに、ワーク・ライフバランスの向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「計画的に業務を行った」と答える教職員の割合 80%以上 ・「ICT を活用して業務改善を行った」と答える教職員の割合 90%以上 ・定例の分掌会議を中心に意見を交わし、協力し合うことができていると互いに実感できる。 ・業務平準化を目指し、常に業務内容を精査する習慣を各人が身に付ける。 ・業務が偏らないように分担を工夫しバランスをとる。定期試験前などに年休習得、定時退勤の機会を生かすように互いに呼びかける。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が「チーム吉高」として協働し、業務改善や情報共有を進める体制が整い、教育活動の質向上に大きく寄与している点を高く評価する。一方で、週1日の定時退勤を達成した教職員の割合が目標に届かなかったことは今後の課題といえる。充実した授業づくりや生徒支援に力を注ぐほど時間が必要となり、定時退勤との両立が難しくなる教育現場特有のジレンマも存在する。学校全体で業務の重点化と支援体制をさらに工夫し、教員の働きやすさと教育の質の両立を進めていくことが期待する。 ・限られた時間の中でやらなければいけないことが多すぎる。じっくりと振り返り、再検討する必要がある。そして、生徒との時間を確保するための工夫を吉高独自のものが考えられることを期待したい。 ・先生方の努力は生徒の姿として表れてきています。思いやりの心は私自身もとても嬉しく感じる。 ・学年主任からの話は、学年でチームワークが取れている様子が伝わってくる。引き続き、この体制を維持してほしい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・担任会を月1回開催し、生徒情報等を共有する。常に助け合える環境にする。 ・検査・監査での文書指摘0（ゼロ） ・教職員の時間外勤務時間合計を前年比3%削減 ・各自が週1日の定時退勤曜日を定め、「週1日は概ね定時退勤できた」と答える教職員の割合90%以上 ・管理職の年間を通した面談や助言により、「自身の目標とその手立てを明確にし、取り組むことができた」と答える教職員の割合80%以上 		<ul style="list-style-type: none"> ・課題はいまだあるが改善に向けて意欲的に取り組んでいることは評価に値する。
--	--	---	--	---